

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピリな花		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別性に配慮した療育を行っている。	小人数の児童に対して療育を行い、集団生活の中では療育が行き届きづらい児童に対して、もれなく必要な療育が行き届くよう支援を組み立てている。専門職員も配置しているため、多面的な視点をもって児童の全体像を捉え、一人ひとりにあわせた療育を行うよう努めている。	個別に対応したプログラムを組み立てて提供する療育のニーズを感じている。サービス提供の仕組みを整備して多くの児童を受け入れ、幅広く療育が行き届くようにしていきたい。
2	多種多様な活動を提供している。	通ってくる児童を思い浮かべながら活動を企画し、工作や調理、運動、ルールのある遊びなど、幅広い活動を提供するよう努めている。	児童が在籍している保育園などで、どのような活動を行っているのか、またどのような様子で参加しているのかなど、お互いに情報を共有して連携を図りたい。課題を共有した上で、それぞれの施設や事業所で必要な経験を積むことができる活動を提供できるよう努めたい。
3	保護者様との交流の機会を持つようにしている。	保護者様の送迎時、施設の出入りがあるため、その日の様子や療育の目的などを伝えるよう努めている。また、児童が行う活動の様子を見る機会になるよう、今年度から新たな取り組みとしてオープンハピリ(保護者参観)を企画して行った。	オープンハピリ(保護者参観)の開催頻度を増やしていきたい。具体的な目標として年に3回行いたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の構造や運営形態上、療育の限界や危険性がある。	多機能型事業所として、児童発達支援のみでなく放課後等デイサービスも運営しているため、認知能力も体格も異なる幅広い児童が通っている。どちらも考慮しながら場所や時間を調整しているが、それゆえにできることとできないことの限界もある。	児童発達支援と放課後等デイサービスに通う児童が過半数の場所や時間を配慮し、グループを構成しながら、安全の確保に努めたい。安全を確保しながら、できることを増やしつつ、交流の機会も持つようにしていきたい。
2	保護者様およびきょうだい様を巻き込んだ交流が少ない。	保護者様を対象として、なの花Café(保護者懇談会)やオープンハピリ(保護者参観)を行っているが、きょうだい様まで巻き込んだ企画はなかった。	きょうだい様も参加しやすく、巻き込みやすいようなイベントを企画していきたい。
3	保育園や、地域の方との交流の機会が少ない。	外出活動を通して、地域の方々と挨拶を交わす程度のことではあっても、地域の方々と共に活動することはこれまでなかった。また、地域の方々とのコネクションもなかった。保育園に在籍していない児童のために、保育園と交流の機会をつくるイメージがなく、踏み込めずにいた。	まずは支援者が地域の方々と交流の機会を持つように心掛け、関係づくりに努めたい。これらの取り組みを広げながら、地域資源を発掘できるよう積極的に行動していきたい。先進的に取り組んでいる事例を探し出し、参考にしながら、創意工夫をこらして企画していきたい。